

津波予報のより速やかな更新や解除について

7月2日より、地震発生後10～20分程度で地震断層の解析を行い、その解析結果にもとづき津波予報の解除や切り替えをより速やかに行います。

気象庁では、傾斜角45度の逆断層型の地震を想定した約10万通りの津波のシミュレーション結果をデータベース化しており、地震発生直後に推定した震源の位置や地震の規模（M：マグニチュード）によってこのデータベースを参照し、通常3分程度、緊急地震速報の震源等を活用できる場合は最速2分程度を目途に津波予報を発表しています。また、津波予報発表後は、全国の検潮施設の記録を監視し、津波予報の更新や解除を行っています。

地震発生メカニズム即時推定システムの運用開始により、地震発生から10分ないし20分程度で、地震の規模をよりの確に表す断層運動の大きさ（ M_w ：モーメントマグニチュード）の推定や、津波を発生させやすい逆断層や正断層か、あるいは津波を発生させにくい横ずれ断層であるかの識別を行うことができるようになりました。この成果を活用し、以下の通り、津波予報の更新や解除をより速やかに行います。

- ① M_w と地震発生直後に推定したマグニチュードとの大きさを比較して、津波注意報や警報の切り替えや解除を早めに行う
- ② 横ずれ断層の場合に、津波の高さを再評価し、津波注意報や警報の早期解除や切り替えを行う。

M_w による津波予報の更新や解除、あるいは横ずれ断層と推定された場合の津波予報の更新や解除を7月2日（月）より開始します。ただし、横ずれ断層の場合の対処は、横ずれ断層に対応したデータベースが整備された東海・東南海・南海の海域から開始し、今年度中に千島海溝・日本海溝の周辺海域へ拡大し、その後順次その他海域に適用していきます。

【問い合わせ先】 気象庁地震火山部地震津波監視課長補佐

電話：代表 03-3212-8341 内線 4542

津波予報のより速やかな更新や解除

